

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	日立オートモティブシステムズ株式会社厚木事業所 テクニカルセンター棟建設工事	階数	地上5F
建設地	厚木市恩名四丁目1370-1他64筆	構造	S造
用途地域	工業地域、第1種中高層住居専用地域、第2種住居地域	平均居住人員	1,420 人
地域区分	6地域	年間使用時間	4,380 時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年9月 予定	評価の実施日	2019年5月28日 (株)日立建設設計 東日本支社一級建築士事務所
敷地面積	4,396 m ²	作成者	(株)日立建設設計 東日本支社一級建築士事務所
建築面積	1,849 m ²	確認日	2019年5月29日 (株)日立建設設計 東日本支社一級建築士事務所
延床面積	8,880 m ²	確認者	(株)日立建設設計 東日本支社一級建築士事務所



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.1 ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Q のスコア = 2.5

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.8

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.9

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 1.7

LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 3.7

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.1

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.4

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

3 設計上の配慮事項

総合	その他	
<ul style="list-style-type: none"> 室内環境、サービス性能への配慮を行う。 敷地内外環境への配慮を行う。 エネルギー、資源、マテリアルの確保に努めている。 		
Q1 室内環境 ・全館禁煙とし、室内の空気質環境に配慮している。	Q2 サービス性能 ・天井高を確保し、広さ感に配慮している。 ・給排水管は耐用年数の長い部品部材を採用している。	Q3 室外環境 (敷地内) ・特に無し。
LR1 エネルギー ・高い省エネルギー性能を確保し、建物の環境負荷低減に努めている。	LR2 資源・マテリアル ・リサイクル材の活用を努めている。 ・不活性ガス消化設備を採用し、フロンハロンの回避に努めている。	LR3 敷地外環境 ・省エネルギー性能を高め、LCCO ₂ 排出率を75%としている。 ・チェックリスト、配慮事項の過半を満たす等、光害の抑制に努めている。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される